# **■** NetApp

## クロスアカウント構成とクロスリージョン構成 Cloud Manager

NetApp July 12, 2021

## 目次

| クロスアカウント構成とクロスリージョン構成           | 1 |
|---------------------------------|---|
| AWS でマルチアカウントアクセスのバックアップを設定します  | 1 |
| Azure でマルチアカウントアクセスのバックアップを設定する | 9 |

## クロスアカウント構成とクロスリージョン構成

これらのトピックでは、異なるクラウドプロバイダを使用する場合のクロスアカウント 構成用の Cloud Backup の設定方法について説明します。

- "AWS でマルチアカウントアクセス用に Cloud Backup を設定"
- "Azure でマルチアカウントアクセスに Cloud Backup を設定"

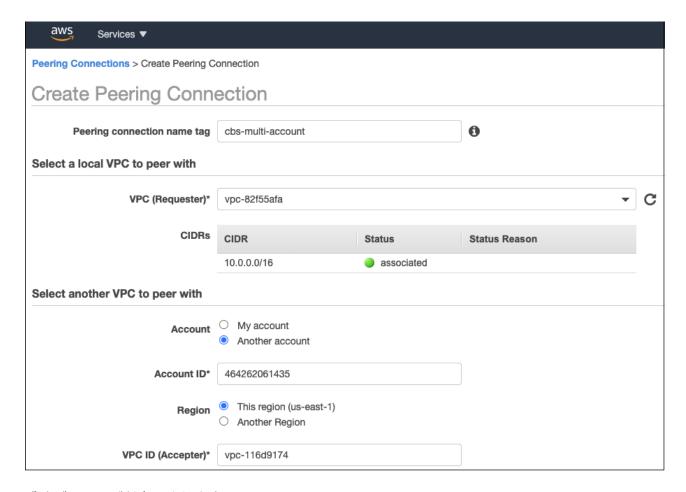
## AWS でマルチアカウントアクセスのバックアップを設定します

Cloud Backup では、ソースボリュームとは別の AWS アカウントにバックアップファイルを作成できます。これらのアカウントは、 Cloud Manager Connector がインストールされているアカウントとは異なる場合があります。

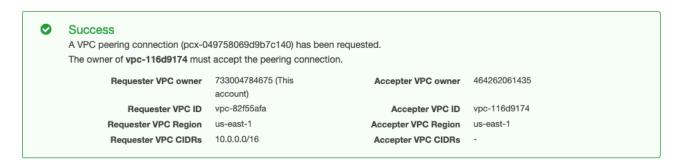
この方法で設定を行うには、次の手順を実行します。

### アカウント間に VPC ピアリングを設定します

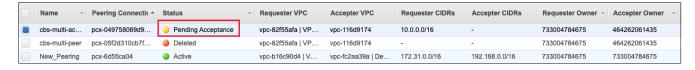
- 1.2つ目のアカウントにログインし、ピアリング接続を作成します。
  - a. ローカル VPC を選択: 2 つ目のアカウントの VPC を選択します。
  - b. 別の VPC を選択:最初のアカウントのアカウント ID を入力します。
  - c. Cloud Manager Connector が実行されているリージョンを選択します。このテストセットアップでは、両方のアカウントが同じリージョンで実行されています。
  - d. VPC ID : 最初のアカウントにログインし、アクセプタ VPC ID を入力します。Cloud Manager Connector の VPC ID です。



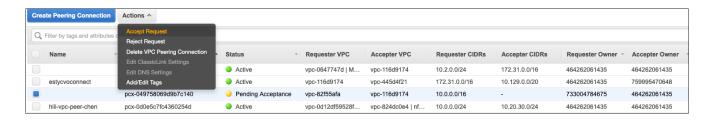
#### 成功ダイアログが表示されます。



#### ピアリング接続のステータスは、 Pending Acceptance と表示されます。



#### 2. 最初のアカウントにログインし、ピアリング要求を承認します。





a. 「\*はい\*」をクリックします。



接続がアクティブと表示されます。また、「 CBS-multi-account 」と呼ばれるピアリング接続を識別するための Name タグも追加しました。



a. 2 つ目のアカウントのピアリング接続を更新し、ステータスが Active に変わったことを確認します。

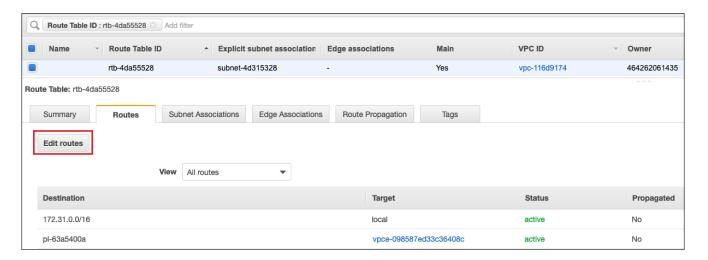


## 両方のアカウントのルートテーブルにルートを追加します

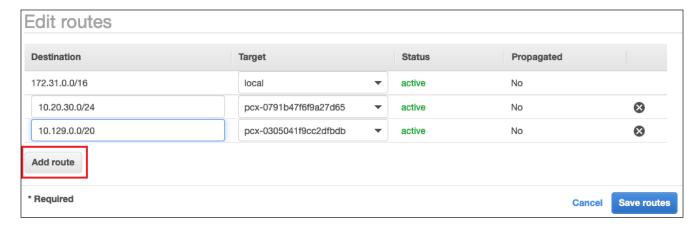
1. VPC > サブネット > ルートテーブルに移動します。

| VPC > Subnets > subnet-4d315328                |                                |   |                                |  |
|--|--------------------------------|---|--------------------------------|--|
| subnet-4d315328 / The Subnet created           |                                |   |                                |  |
| Details  |                                |   |                                |  |
| Subnet ID  D subnet-4d315328                   | State  O Available             | VPC<br>vpc-116d9174   | IPv4 CIDR 172.31.64.0/20       |  |
| Available IPv4 addresses                       | IPv6 CIDR<br>-                 | Availability Zone  us-east-1a   | Availability Zone ID  use1-az1 |  |
| Network border group  D us-east-1              | Route table rtb-4da55528       | Network ACL<br>acl-c37384a6   | Default subnet Yes             |  |
| Auto-assign public IPv4 address<br>Yes         | Auto-assign IPv6 address<br>No | Auto-assign customer-owned IPv4 address<br>No                         | Customer-owned IPv4 pool       |  |
| Outpost ID –                                   | Owner <b>1</b> 464262061435    | Subnet ARN  arr:aws:ec2:us-east-1:464262061435:subnet/subnet-4d315328 |                                |  |
| Flow logs Route table Network ACL Sharing Tags |                                |   |                                |  |

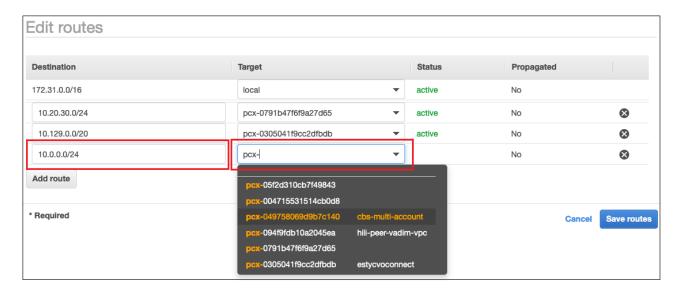
2. [ルート]タブをクリックします。



3. \* ルートの編集 \* をクリックします。



- 4. [Add route\*] をクリックし、 [Target] ドロップダウンリストから [\* ピアリング接続 \*] を選択して、作成したピアリング接続を選択します。
  - a. デスティネーションで、もう一方のアカウントのサブネット CIDR を入力します。

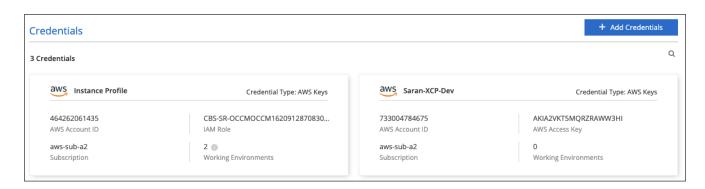


b. [ルートの保存( Save Routes )] をクリックすると、[成功( Success )] ダイアログが

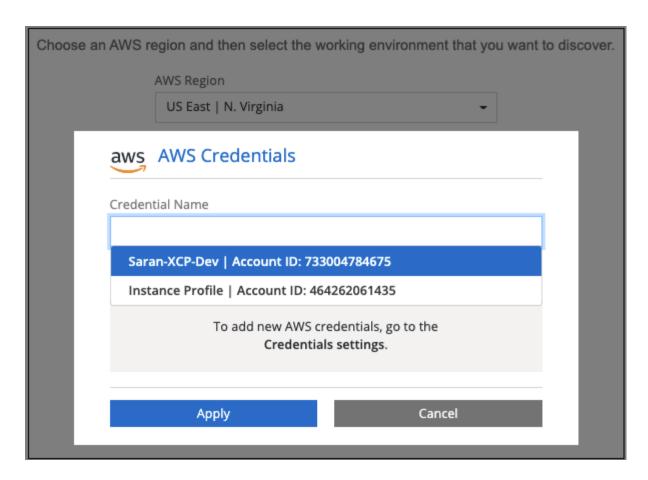


## Cloud Manager で 2 つ目の AWS アカウントのクレデンシャルを追加します

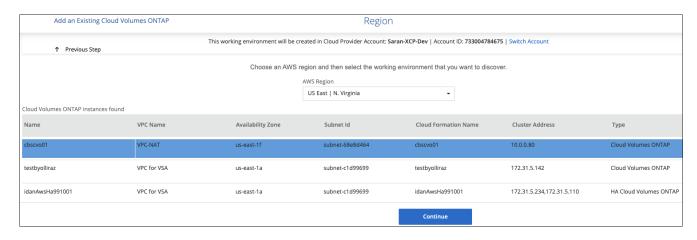
1. 2 つ目の AWS アカウントを追加します。例: Saran - XCP - Dev.



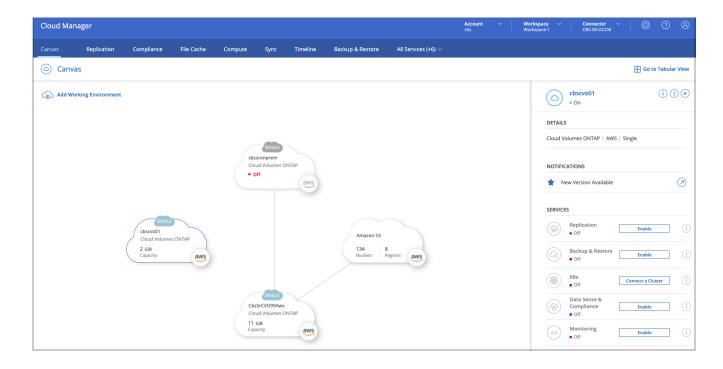
2. Discover Cloud Volumes ONTAP ページで、新しく追加したクレデンシャルを選択します。



3. 2 つ目のアカウントから検出する Cloud Volumes ONTAP システムを選択します。2 番目のアカウントに新しい Cloud Volumes ONTAP システムを導入することもできます。

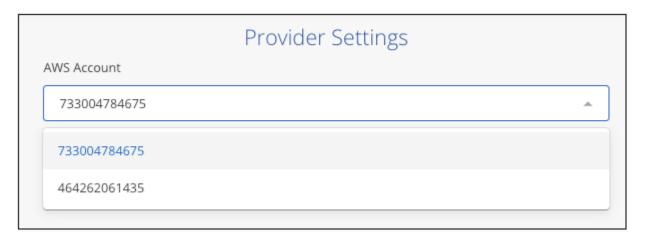


2 番目のアカウントの Cloud Volumes ONTAP システムが、別のアカウントで実行されている Cloud Manager に追加されます。



### もう一方の AWS アカウントでバックアップを有効にします

1. Cloud Manager で、最初のアカウントで実行されている Cloud Volumes ONTAP システムのバックアップを有効にし、2番目のアカウントをバックアップファイルの作成場所として選択します。



2. 次に、バックアップポリシーとバックアップするボリュームを選択し、 Cloud Backup は選択したアカウントで新しいバケットを作成しようとします。

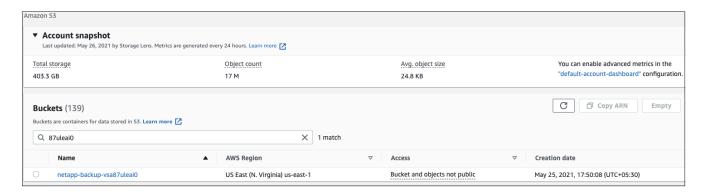
ただし、 Cloud Volumes ONTAP システムへのバケットの追加は失敗します。これは、 Cloud Backup が インスタンスプロファイルを使用してバケットを追加するためで、 Cloud Manager インスタンスプロファイルが 2 番目のアカウントのリソースにアクセスできないためです。

3. Cloud Volumes ONTAP システムの作業環境 ID を取得します。

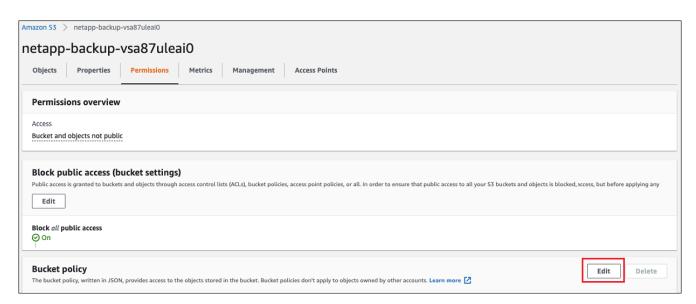


Cloud Backup は「 NetApp-backup- 」というプレフィックスを付けてすべてのバケットを作成し、作業環境 ID を含めます。たとえば「 87ULea10 」となります

4. EC2 ポータルで S3 に移動し、「 87uLea10 」で終わる名前のバケットを検索すると、「 NetApp-backup-vsa87uLea10 」と表示されるバケット名が表示されます。



5. バケットをクリックし、 [権限] タブをクリックして、 [バケットポリシー] セクションの **Edit** をクリックします。



6. 新しく作成したバケットのバケットポリシーを追加して、 Cloud Manager の AWS アカウントにアクセス できるようにしてから、変更を保存します。

```
"Version": "2012-10-17",
"Statement": [
    "Sid": "PublicRead",
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "AWS": "arn:aws:iam::464262061435:root"
    },
    "Action": [
      "s3:ListBucket",
      "s3:GetBucketLocation",
      "s3:GetObject",
      "s3:PutObject",
      "s3:DeleteObject"
    1,
    "Resource": [
      "arn:aws:s3:::netapp-backup-vsa87uleai0",
      "arn:aws:s3:::netapp-backup-vsa87uleai0/*"
1
```

「aws 」: "aws : "arn : aws : 464262061435 : root 」ではアカウント 464262061435 のすべての リソースにこのバケットへのアクセスを許可しています。特定のロールレベルに減らすには、特定のロールでポリシーを更新します。ロールを個別に追加する場合は、 occm ロールも追加する必要があります。 追加しないと、 Cloud Backup UI でバックアップが更新されません。

例: "AWS" : "arn : aws : IAM : 464262061435 : role/CVO-instance-profileversion10-d8e-lamInstanceRole-IKJP1HC2E7R"

7. Cloud Volumes ONTAP システムでクラウドバックアップの有効化を再度実行して、成功することを確認します。

## Azure でマルチアカウントアクセスのバックアップを設定する

Cloud Backup を使用すると、ソースボリュームとは別の Azure アカウントにバックアップファイルを作成できます。これらのアカウントは、 Cloud Manager Connector がインストールされているアカウントとは異なる場合があります。

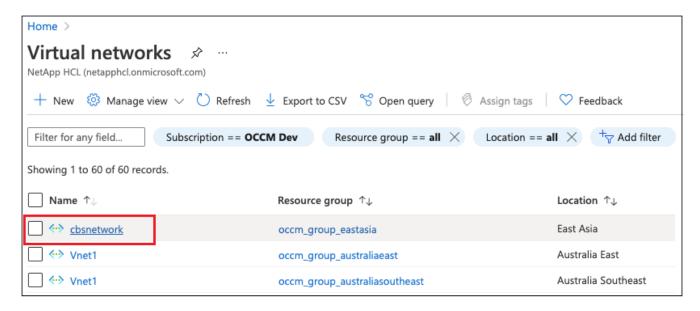
この方法で設定を行うには、次の手順を実行します。

## アカウント間の VNet ピアリングを設定します

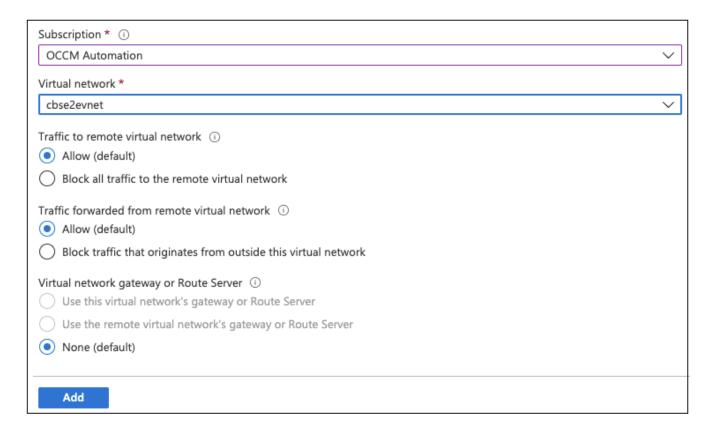
Cloud Manager で別のアカウントやリージョンの Cloud Volumes ONTAP システムを管理する場合は、 VNet

ピアリングを設定する必要があります。ストレージアカウントの接続に VNet ピアリングは必要ありません。

- 1. Azure ポータルにログインし、ホームから仮想ネットワークを選択します。
- 2. サブスクリプション 1 として使用するサブスクリプションを選択し、ピアリングを設定する VNet 上でクリックします。



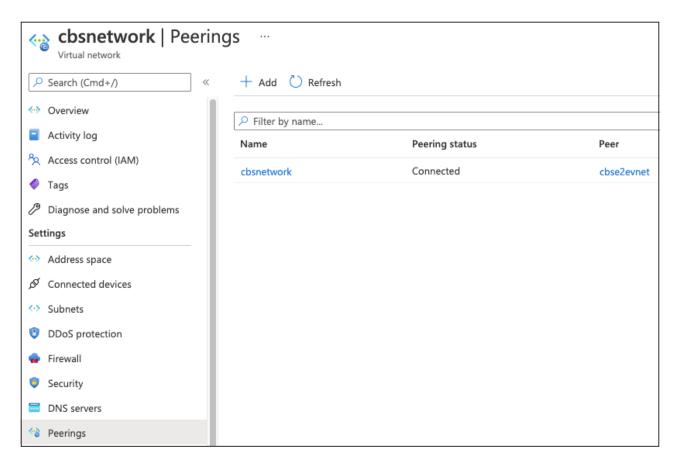
3. cbsnetwork を選択し、左パネルから peerings をクリックし、\*Add \*をクリックします。



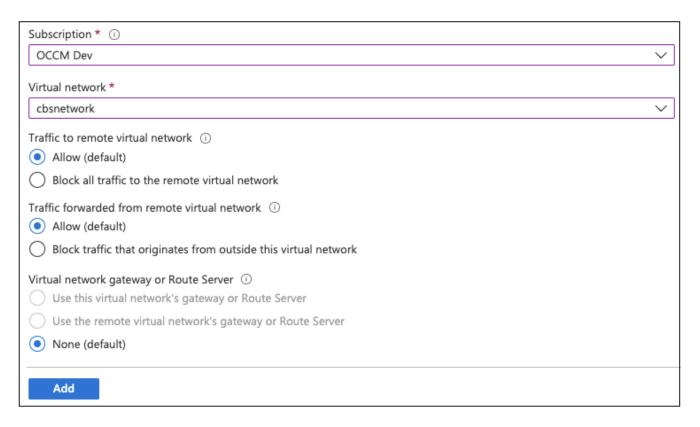
- 4. ピアリングページで次の情報を入力し、\*追加\*をクリックします。
  - 。このネットワークのピアリングリンク名:ピアリング接続を識別する任意の名前を指定できます。
  - 。リモート仮想ネットワークピアリングリンク名:リモート VNet を識別するための名前を入力しま

す。

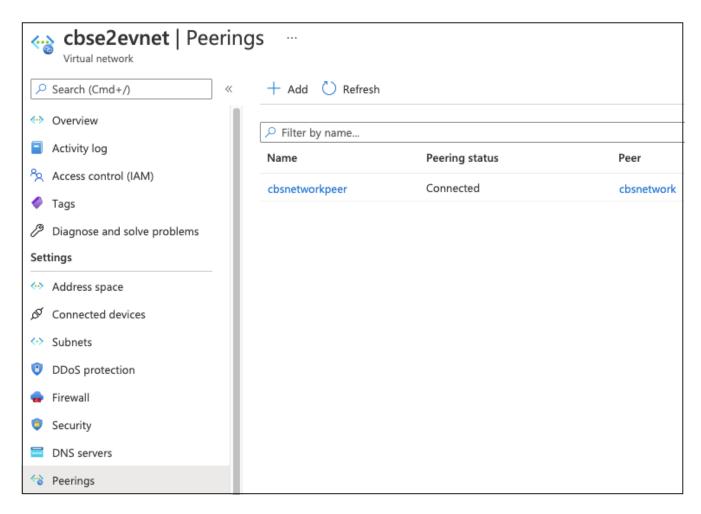
- 。すべての選択をデフォルト値のままにします。
- 。[サブスクリプション]で、サブスクリプション2を選択します。
- 。仮想ネットワーク:ピアリングを設定するサブスクリプション2の仮想ネットワークを選択します。



5. サブスクリプション 2 VNet 内で同じ手順を実行し、サブスクリプション 1 のサブスクリプションおよび リモート VNet の詳細を指定します。



#### ピアリング設定が追加されます。



### ストレージアカウントのプライベートエンドポイントを作成します

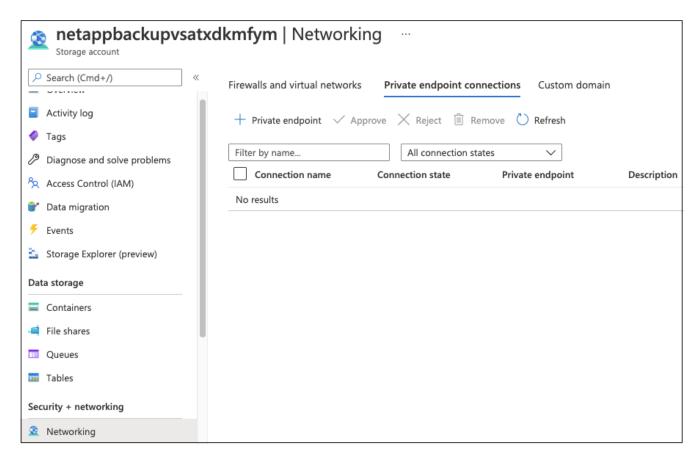
次に、ストレージアカウント用のプライベートエンドポイントを作成する必要があります。この例では、サブスクリプション 1 でストレージアカウントが作成され、 Cloud Volumes ONTAP システムはサブスクリプション 2 で実行されています。



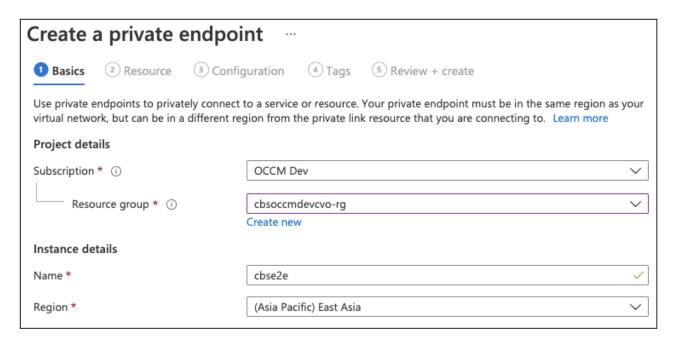
次の操作を実行するには、ネットワーク作成者の権限が必要です。

```
"id": "/subscriptions/d333af45-0d07-4154-
943dc25fbbce1b18/providers/Microsoft.Authorization/roleDefinitions/4d97b98
b-1d4f-4787-a291-c67834d212e7",
  "properties": {
    "roleName": "Network Contributor",
    "description": "Lets you manage networks, but not access to them.",
    "assignableScopes": [
      11 / 11
    ],
    "permissions": [
        "actions": [
          "Microsoft.Authorization/*/read",
          "Microsoft.Insights/alertRules/*",
          "Microsoft.Network/*",
          "Microsoft.ResourceHealth/availabilityStatuses/read",
          "Microsoft.Resources/deployments/*",
          "Microsoft.Resources/subscriptions/resourceGroups/read",
          "Microsoft.Support/*"
        ],
        "notActions": [],
        "dataActions": [],
        "notDataActions": []
    1
  }
}
```

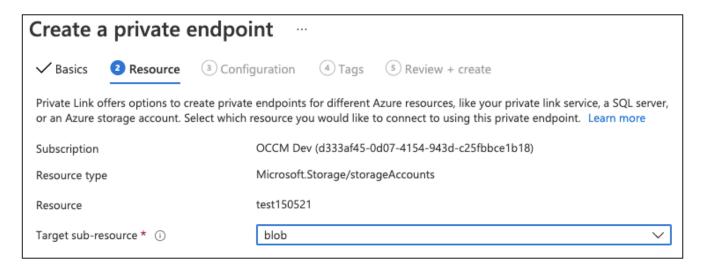
1. ストレージアカウント > ネットワーク > プライベートエンドポイント接続に移動し、\* + プライベートエンドポイント \* をクリックします。



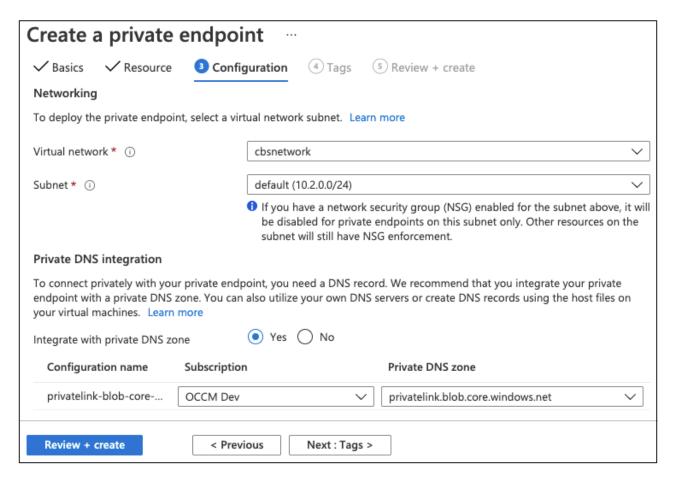
- 2. Private Endpoint\_Basics\_page で、次の手順を実行します。
  - 。サブスクリプション 2 ( Cloud Manager Connector と Cloud Volumes ONTAP システムを導入する場所)とリソースグループを選択します。
  - エンドポイント名を入力します。
  - リージョンを選択します。



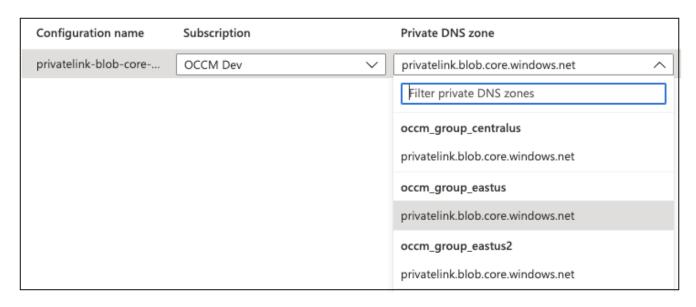
3. \_Resource\_page で ' ターゲットサブリソースとして \*blob \* を選択します



- 4. 設定ページで、次の操作を行います。
  - 仮想ネットワークとサブネットを選択します。
  - 。[はい\*]ラジオボタンをクリックして、[プライベート DNS ゾーンと統合]を選択します。



プライベート DNS ゾーン] リストで、正しいリージョンからプライベートゾーンが選択されていることを確認し、[\*レビュー+作成\*]をクリックします。



これで、ストレージアカウント(サブスクリプション 1 )は、サブスクリプション 2 で実行されている Cloud Volumes ONTAP システムにアクセスできます。

6. Cloud Volumes ONTAP システムでクラウドバックアップの有効化を再度実行して、成功することを確認します。

#### **Copyright Information**

Copyright © 2021 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system-without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

#### **Trademark Information**

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <a href="http://www.netapp.com/TM">http://www.netapp.com/TM</a> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.